

彙報

第二一回総会および研究集会

木簡学会第二一回総会および研究集会は、一九九九年二月四・五日に、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一六九人の個人会員、二団体の団体会員の参加を得て開催された。会場には飛鳥池遺跡、秋篠・山陵遺跡、長岡京跡、難波宮跡、宮町遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、飯塚遺跡から出土した木簡が展示された。

◇二月四日（土）（一三時～一八時）

狩野久会長による開会の挨拶の後、総会、研究集会を開催した。

第二一回総会（議長 西別府元日氏）

会務報告（館野和己委員）

会員の状況（個人会員三三〇名、海外会員三名、団体会員四団体のほか、二〇〇〇年度新入会員一〇名、学会創立二〇周年記念事業として『日本古代木簡選』続編の編集を進めていることなどが報告された。編集報告（清水みき委員）

『木簡研究』二二号の編集経過について、内容、分量、頒価などの報告があり、今後の編集上の問題として、全体の分量との関係で

近年増加している中・近世の木簡への対応が課題であるとの指摘がなされた。

会計・監査報告（山中敏史委員・石上英一監事）

山中委員から一九九八年度の一般会計および特別研究集会・二〇周年記念出版事業にかかる特別会計の決算報告がなされ、石上監事から会計事務は適正に執行されている旨の監査報告がなされた。なお、未収会費の問題、帳簿の作成方法の問題などが付帯意見として提出された。次いで、山中委員から二〇〇〇年度予算案が提案された。

以上の案件は全て承認された。
その他

委員会により作成された「飛鳥池遺跡の保存・活用についての要望書（案）」が西山良平委員から提案され、一部の字句を修正した上で承認された（三四〇頁会告参照）。

研究集会

報告（司会 鎌田元一委員）

帳簿と木簡

難波宮北西部から出土した木簡

山口英男氏

江浦 洋氏

山口氏の報告は、東大寺写経所文書と照合して、木簡の用途、機能を再検討したもの、江浦氏の報告は難波宮から出土した「戊申年」の年紀を持つものを含む木簡群についての事例報告である。

◇二月五日(日)(九時～一五時)

研究集会

報告(司会 今泉隆雄委員)

一九九九年全国出土の木簡

吉川 聡氏

出雲市三田谷I遺跡出土の木簡

熱田貴保氏

大分県国東町飯塚遺跡と出土木簡 永松みゆき氏・館野和己氏

吉川氏の報告は全国八一遺跡から出土した木簡の概要についての報告で、その多くは本号に掲載できた。熱田氏および永松・館野氏の報告はそれぞれの遺跡の発掘成果に基づく事例報告である。

討論(司会 平川 南委員)

午後に入り、前日の報告も含めて討論が行なわれた。特に、難波宮跡出土木簡に見える干支の問題や、飯塚遺跡出土木簡に見える出挙関係の木簡をめぐって、活発な議論がなされた。

最後に田辺征夫副会長の挨拶で大会の日程を終了した。

委員会報告

◇一九九九年二月四日(土) 一〇時三〇分～一二時

於奈良国立文化財研究所

総会に先立ち、会務、編集、会計および総会、研究集会の運営についての報告、「飛鳥池遺跡の保存・活用についての要望書(案)」の提案がなされ、審議の上承認された。

◇二〇〇〇年六月九日(金) 一四時三〇分～一七時

於奈良国立文化財研究所

1 会務について、会員の異動が報告され、また、新たに馬場基氏、横内裕人氏に幹事を委嘱することが承認された。2 一九九九年度決算報告および監査報告が行なわれ、いずれも承認された。3 入会希望者(二〇〇一年度、一六名)に関して入会審査がなされた。4 会誌二二号の編集(担当は西山良平委員、吉川聡幹事)の経過について報告がなされ、取り扱う木簡の年代などについて議論が行なわれた。5 第二二回総会、研究集会の予定について協議がなされた。6 「京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画の撤回を求める要望書(案)」が提案され、審議の上で承認された(三四二頁会告参照)。7 二〇周年記念出版事業について編集経過の報告がなされた。8 次回の特別研究集会の予定についての協議がなされた。

◇二〇〇〇年一月七日(火) 一四時三〇分～一七時

於奈良国立文化財研究所

1 会務について、会員の異動が報告された。2 入会希望者(二〇〇一年度、一六名)に関して審査が行なわれ、全て承認された。3 会誌二二号の編集経過について報告がなされた。4 会計について、二〇〇〇年度中間報告、後半期収支予定、二〇〇一年度予算案を協議した。5 総会・研究集会について日程・研究報告などの協議を行なった。6 次年度における委員の改選について協議がなされた。7 次回の特別研究集会について協議し兵庫県日高町にて行なうこととし

(古尾谷知浩)

会長 佐藤 宗淳

副会長 鎌田 元一

委員 今泉 隆雄

榮原永遠男

館野 和己

西山良平

粬山
明

渡辺 晃宏

石上英一

岩宮 隆司

鶴見 泰寿

馬場基

山下信一郎

吉川 聡

田邊 征夫

岩本 正二

佐藤 信

寺崎保広

平川南

山中
敏史

岩本 次郎

鷺森 浩幸

土橋
誠

古尾谷知浩

山本 崇

吉川 真司

清水
みき

東野 治之

本郷 真紹

和田
萃

鈴木 景二

西村さとみ

增
微

横内 裕人

今年もあと僅かとなり、『木簡研究』の編集後記を書く季節にな

った。今号は各地の報告がついに一〇二件となり、昨年の記録をまたも更新した。これに論文・書評を加えると、優に三〇〇頁を超える。ご味読・ご検討をお願いする次第である。

さて、『木簡研究』は実に多くの人々に支えられている。お忙しいなか、各地の情報をご執筆いただいた調査担当者の方々、論文・書評をお寄せいただいた山口さん・杉本さん・北村さん・平石さんに、心からお礼申し上げます。委員や若手の幹事の皆さんにも、たいへんお世話になった。また、事務局で編集を担当されたのは、新進の吉川聡さんである。聡さんが、遅くまで机に向かっている姿が目につく。

顧みれば、昔の『木簡研究』に比べ、昨今は二倍の分量がある。これだけの厚さを、この精度・内容で出し続けるのは、なかなかの作業である。編集上の工夫が、何かに必要な段階に達しているかと思われる。

この編集後記は、一月の初めに書いている。正直なところ、この後記が大会の当日に、会員の皆さんの目にふれていることを切に望んでいる。

(西山良平)